

長畝ふるさと通信



【2023年6月号】

■ 生育順調です



6月は天候も良く、適度に雨も降ってくれたおかげで苗の初期生育は順調のようです。草丈、茎数、葉数、葉色ともに普及センターが指導する目標値を今のところクリアしています。佐渡は6月12日から梅雨入りしましたが、大した雨も降らず湿度も高くないので苗にも人にも快適です。この調子で夏本番を迎えたいものです。

先月号でご紹介した「ドローンによる直播」実証圃ですが、約50日経過した状態が右の写真です。通常の田植と違い発芽せず、苗がない所が散見されますが、そこはある程度想定通りです。育苗と田植えの手間を省いた分を差し引いて最終的にどれだけ収量が確保できるかが勝負ですから。さすがに全面的に進める勇気はありませんが、経費削減の有効な手段となりうるのではないのでしょうか。



● 6月28日撮影、これから気温が上がってくると通常の苗に追いついてくるはずです。

■ 溝切は体力勝負だけど有効な技術



苗の茎数が1株15～18本位まで分けつしたら「中干し」に入ります。一旦、田んぼの水を抜くことによって田面に酸素を送り、無効分けつを抑える効果があります（分けつが過多になるとそこで養分を使いすぎて秋の実りが弱くなる）。中干しで地固めができれば給排水を効率よく行うために溝切をします。これが中々体力勝負でキツイ仕事なんです。

■ とことん生きもの調査

6月11日、トキ認証米の必須要件のひとつ「生きもの調査」を行いました。朝7時から地元の長畝田んぼでは畦周辺のカエルの調査、その後、キッズ生きもの調査隊の活動として平野部の田んぼと山間部の田んぼでそれぞれ生きもの調査をトリプルヘッダーで行いました。カエルの調査ではまず、1枚の田んぼの畦周りにどんな種類のカエルがそれぞれ何匹居るかをカウントし、そのあとオタマジャクシの同定(オタマジャクシの目の付き方や口先の形などからカエルの種類を判断します)を行いました。圧倒的にアマガエルが多かったです。

キッズとの平野部の調査では丁度、ヤゴが羽化する直前で数え切れないほどのヤゴを捕獲しました。イトトンボが少し混じってはいたものの、ほとんどが「ノシメトンボ」のヤゴでした。また、山間部へ移動して棚田で調査すると、そこには平野部では中々見ることができないモリアオガエルやアカハライモリといったレアな生きものを観察しました。平野部では既にカエルになっていたオタマジャクシも、山は気温が低いせいか



まだ変体前で足が生えたばかり・・・場所によってかなり生態に差があることがわかりました。キッズの中には「同定のスペシャリスト」と呼ばれる生きもの大好き少年がおり、オニヤンマとギンヤン

マのヤゴをルーペ片手に細部にわたって観察していました(将来はファールブルにでもなるつもりか)。

なぜ生きもの調査をするのか・・・それは小さな生き物たちが棲めない環境ではやがて人間たちも住めなくなるのでは?だから環境を守ることは大切でそこで獲れたおコメも生きものたちと繋がっているのだよと訴えたいから・・・。経済的な価値感とはズレますけど・・・大事です。



■ 令和5年産米もよろしくお願ひします

今年もウミネコの大群が飛来しています。年々数が増え、平野部の奥まで進出してきた気がします。気づいたら今年は家の納屋にツバメが来ていません。こんなことは初めてです。世界の秩序が乱れているせいかもしれませんね。それでも人は腹が減るもので・・・新米の予約案内は7月末にお届けいたします。今年もご愛顧くださいます様お願ひいたします。

おかわりは自由です。

